

D 成分規格・保存基準

改正の履歴（品目のあいうえお順に示す）

βガラクトシダーゼ(2018年11月30日)

フルクトシルトランスフェラーゼ(2018年11月30日)

プロピコナゾール(2018年7月3日)

改正部分は下線で示す

D 成分規格・保存基準各条

(略)

β-ガラクトシダーゼ

β-Galactosidase

ラクターゼ

定 義 本品は、動物の臓器、糸状菌 (*Aspergillus niger*、*Aspergillus oryzae*、*Penicillium multicolor* 及び *Rhizopus oryzae* に限る。) 、酵母 (*Cryptococcus laurentii*、*Kluyveromyces fragilis*、*Kluyveromyces lactis*、*Saccharomyces* 属及び *Sporobolomyces singularis* に限る。) 若しくは細菌 (*Bacillus circulans* 及び *Streptococcus* 属に限る。) の培養物から得られた、β-D-ガラクトシドのガラクトシド結合を加水分解する酵素である。

食品（賦形、粉末化、希釈、安定化、保存又は力価調整の目的に限る。）又は添加物（賦形、粉末化、希釈、安定化、保存、pH 調整又は力価調整の目的に限る。）を含むことがある。

(略)

(略)

フルクトシルトランスフェラーゼ

Fructosyl Transferase

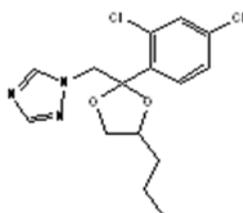
定 義 本品は、糸状菌 (*Aspergillus* 属、*Aureobasidium* 属及び *Penicillium roqueforti* に限る。) 又は細菌 (*Arthrobacter* 属、*Bacillus* 属、*Microbacterium saccharophilum* 及び *Zymomonas mobilis* に限る。) の培養物から得られた、糖のフルクトシル基を転移する酵素である。食品（賦形、粉末化、希釈、安定化、保存又は力価調整の目的に限る。）又は添加物（賦形、粉末化、希釈、安定化、保存、pH 調整又は力価調整の目的に限る。）を含むことがある。

(略)

(略)

プロピコナゾール

Propiconazole



C₁₅H₁₇Cl₂N₃O₂

分子量 342.22

(2*RS*, 4*RS*; 2*RS*, 4*SR*)-1-[2-(2, 4-dichlorophenyl)-4-propyl-1, 3-dioxolan-2-ylmethyl]-1*H*-1, 2, 4-triazole [60207-90-1]

含 量 本品は、プロピコナゾール (C₁₅H₁₇Cl₂N₃O₂) 95.0%以上を含む。

性 状 本品は、無～暗い黄赤色の粘稠な液体であり、においが無い。

確認試験 本品を赤外吸収スペクトル測定法中の液膜法により測定し、本品のスペクトルを参照ス

ペクトルと比較するとき、同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。ただし、窓板は塩化ナトリウムを使用する。

比重 $d_{20}^{20}=1.288\sim 1.290$

純度試験 鉛 Pbとして $2\ \mu\text{g}/\text{g}$ 以下 (2.0 g、第1法、比較液 鉛標準液 4.0 mL、フレイム方式)

ただし、検液の調製における強熱温度は 450°Cとする。

定量法 本品及び定量用プロピコナゾール約 50mg ずつを精密に量り、それぞれに内標準液 20mL を正確に加えた後、アセトンを加えて溶かして正確に 100mL とし、検液及び標準液とする。ただし、内標準液は、定量用フルジオキシニル 75mg を量り、アセトンを加えて溶かして正確に 50mL としたもとする。検液及び標準液をそれぞれ 1 μL ずつ量り、次の操作条件でガスクロマトグラフィーを行う。検液及び標準液のフルジオキシニルのピーク面積に対するプロピコナゾールのピーク面積の比 Q_T 及び Q_S を求め、次式により含量を求める。

プロピコナゾール ($\text{C}_{15}\text{H}_{17}\text{Cl}_2\text{N}_3\text{O}_2$) の含量 (%)

$$\frac{\text{定量用プロピコナゾールの採取量 (mg)}}{\text{試料の採取量 (mg)}} \times \frac{Q_T}{Q_S} \times 100$$

操作条件

検出器 水素炎イオン化検出器

カラム 内径 0.25mm、長さ 30m のフューズドシリカ管の内面に、ガスクロマトグラフィー用ジメチルポリシロキサンを 0.25 μm の厚さで被覆したもの

カラム温度 200°C で注入し、毎分 5°C で 280°C まで昇温する。

注入口温度 250°C 付近の一定温度

検出器温度 300°C 付近の一定温度

キャリアーガス ヘリウム

流量 プロピコナゾールの保持時間が 10~15 分になるように調整する。

注入方式 スプリット

スプリット比 1 : 10